

⑯日本国特許庁(JP)

⑮特許出願公開

⑯公開特許公報(A) 平4-126255

⑯Int.Cl.⁵

B 41 J 2/02

識別記号

庁内整理番号

⑯公開 平成4年(1992)4月27日

9012-2C B 41 J 3/04

103 E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑯発明の名称 インクジェットヘッド

⑯特 願 平2-248413

⑯出 願 平2(1990)9月18日

⑯発明者 大前聖教 長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーエプソン株式会社内

⑯出願人 セイコーエプソン株式 東京都新宿区西新宿2丁目4番1号
会社

⑯代理人 弁理士 鈴木喜三郎 外1名

明細書

1. 発明の名称

インクジェットヘッド

2. 特許請求の範囲

記録媒体に対向するように配置した1個または複数個のノズル開口を有するノズル形成部材と電磁コイルとを具備し、ノズル形成部材と電磁コイルとの間がイグクで溝たされ、電磁コイルの端部に永久磁石と復帰ばねとを接觸して搭載したことを特徴とするインクジェットヘッド。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、イグク液を吐出させ記録紙等の記録媒体上にインク像を形成するプリンタ等に使用するインクジェットヘッドに関する。

(従来の技術)

特公昭60-8953号公報等に開示されている従来のインクジェットヘッドの構造は、第5図に示すように紙面厚さ方向に配置された複数のノズル開口100を有するノズル形成部材101と、その背後に配置されインクと直接接觸する振動体102を具備するものである。そして振動体として圧電材が用いられている。このようなインクジェットヘッドでは、振動体102がノズル形成部材101の法線方向に変位するごとに振動する。そして各ノズル開口100間のインク流路が短い距離で通じていることにより、インク滴吐出効率及び安定性が高く、インク中に気泡、ゴミ等の異物が混入した場合でもこれらの影響を受けることなく正常に動作を維持できるという特徴を有する。

(発明が解決しようとする課題)

しかしながら、従来のインクジェットヘッドでは、振動体102の特性上微少な変位しか発生せず、この変位でインクを吐出させるため、インク

箇103に加えられるエネルギーが小さい。このため、所定の吐出特性を得るために、ノズル形成部材101から振動体102までの距離を厳密に作り込む必要があり、生産性が低くインク吐出特性も不安定であるという問題を有していた。

本発明の目的は、以上のような従来のインクジェットヘッドにおける問題点を解決し、エネルギー効率、生産性の向上を図ると共に、インク吐出特性を安定させることにある。

〔課題を解決するための手段〕

上記目的を達成するために、本発明のインクジェットヘッドは、記録媒体に対向するように配置した1個または複数個のノズル開口を有するノズル形成部材と電磁コイルとを具備し、ノズル形成部材と電磁コイルとの間にインクで満たされ、電磁コイルの端部に永久磁石と復帰ばねとを積層して搭載したことを特徴とする。

〔実施例〕

第1のベース14に電磁コイル13と第2のベース19とを積層して固定し、電磁コイル13のノズル形成部材16に対向する側の端面上部に永久磁石12を搭載し、第1のベース14と第2のベース19の端面部にスペーサ18と復帰ばね11とノズル形成部材17とを積層して固定しキャビティ部22を形成する。そして、キャビティ部22とフレーム20とを固定してインクジェットヘッドを構成してある。ノズル形成部材17は複数のノズル開口16を有しており、電磁石13はそれぞれのノズル開口16に対向するよう各々独立に配置されている。永久磁石12は、當時は復帰ばね11のバネ力により電磁コイル13の端面上部に押圧されている。インク21は、フレーム20の外部より供給されノズル開口16まで満たされている。

本実施例では、永久磁石12の材料としてフェライト磁石を用いた。

電磁コイル13への駆動電圧は、電源1.5よりの電気パルスにて印加する。

以下に本発明の詳細を実施例に基づいて説明する。

第1図は、本発明によるインクジェットヘッドを用いたプリンタの斜視図である。図中1は記録媒体で、プラテン4に巻き付けられ送りローラ2・3によって押圧される。ガイド軸6・7に案内され、プラテン軸と平行方向10に移動可能なキャリッジ8上にインクジェットヘッド9が搭載されている。インクジェットヘッド9は、後述するように外部からの駆動電圧を印加することによって独立にインク滴を吐出翻側可能な複数のノズル開口を有している。インクジェットヘッド9は、プラテン軸方向10に走査され、ノズル開口から選択的にインク滴を吐出し、記録媒体1上にインク像を形成する。記録媒体1は、プラテン4、送りローラ2・3の回転により走査方向と直行する刷走査方向5に搬送され、記録媒体1上への印字が行われる。

第2図は本発明によるインクジェットヘッドの第1の実施例を示す断面図である。

次に第4図(α)～(δ)のインク滴吐出の過程に基づいて、インク滴の吐出動作を説明する。

(α)は動作をしていない初期状態を示す。

(β)は電磁コイル13に駆動電圧を印加して磁場を形成し、この磁場により永久磁石12が反発力を受け、矢印24方向に永久磁石12と復帰ばね11がインク23中で変位し、インク滴23の頭部がノズル開口16より出た状態を示す。

(γ)は永久磁石12と復帰ばね11とが(β)よりさらに変位し、ノズル形成部材17に近接または衝突し、インク21のノズル開口16からの流出が阻止されインク滴23の頭部がノズル開口16より離れ、インク滴23が記録媒体1に向かって吐出している状態を示す。

(δ)は復帰ばね11のばね力により、永久磁石12が矢印25方向に変位して初期状態(α)に復帰する過程を示す。

以上のように、電磁コイル13に選択的に駆動電圧を印加して振動させ、(α)～(δ)の動作

特閒平4-126255(3)

過程を繰り返すことにより、インク滴 25 はノズル開口 16 より選択的に吐出する。

本実施例によるインクジェットヘッドの構成においては、前述のインク滴の吐出動作で説明したごとく、電磁コイル 1-3 により形成された磁場の反発力によって永久磁石 1-2 と復帰ばね 1-1 を変位させる。

この永久磁石 1 2 と復帰ばね 1 1 との変位量は、電磁コイル 1 3 に印加される駆動電圧と、永久磁石 1 2 の重さと、復帰ばね 1 1 のばね力との調整により任意に設定し得る。またインク中の変位時に永久磁石 1 2 と復帰ばね 1 1 を拘束する復帰ばね 1 1 のばね力は、永久磁石 1 2 を復帰させるに足りる既少量な大きさでよいため、永久磁石 1 2 と復帰ばね 1 1 の変位量はインクを吐出させるに十分な適正量を容易に設定し取り出し得る。そのため、必要な吐出特性を得るためのノズル形成部材 1 7 までの距離 L (第 2 図参照) の許容値の幅が大きくなる。従って、製造時の管理限界値を大きくとることが出来る。また、第 3 図 (a) に

久磁石12と復帰ばね11と第2のベース19とを横層して固定し、第1のベース14と第2のベース19の端面にノズル形成部材17を固定してキャビティ部を形成する。

インク吐出動作は第2図の実施例と同じである

本実施例の構造を取ることによって、各ノズル開口 16 間の距離に影響されずに矢印 26 方向に永久磁石 12 の寸法を任意に設定し得るため、第 2 図の実施例の場合より設計の自由度が高くまた大きなインク滴を吐出することが出来る。

〔発明の効果〕

本発明によれば、永久磁石と復帰ばねの変位量は、永久磁石の重さと復帰ばねの調整により容易に設定し得るため設計の自由度が高く、また微少な駆動電圧でインク吐出に必要な永久磁石と復帰ばねとの変位を得ることが出来るため、エキルギー効率のよいインクジェットヘッドを提供できる。

示すように、永久磁石 1.2 と復帰ばね 1.1 とはノズル形成部材 1.7 に近接または衝突するため、ノズル開口 1.6 に流入するインク量を制御でき、従来のインクジェットヘッドでは不可避だったサテライト 1.0.4 (第 5 図参照) の発生を抑止することができる。

本実施例の永久磁石 1-2 の材料は前述したものに限定されるものでなく、アルニコ磁石、稀土類磁石等の他の磁石材料も用いることが出来る。

また永久磁石12の形状は、球、立方体、直方体、円柱、円錐体等任意の形状にしてもよいが、インク中の変位時の抵抗を低減しインク吐出応答性をよくするため、球状等平滑面で構成する方が好ましい。

第4図は、本発明の第2の実施例を示すインクジェットヘッドのキャビティ部の構成を示す断面図である。本実施例では、永久磁石12の変位方向に対し直角方向にインク滴23を吐出するよう構成されている。

重磁石 1.5 を内蔵した第 1 のベース 1.4 に、水

また、永久磁石と復帰ばねの変位は従来構造に比較し、より十分大きな変位となってインク滴を吐出する。このため、従来構造ではノズル形成部材から振動体までの距離を厳密に作り込む必要があったのに対し、本発明によれば、ノズル形成部材から電磁コイルまでの距離の管理限界値を大きくとることができる。よって、歩留りの高い生産性のよいヘッドを得ると共に良好なインク滴吐出特性が得られる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明によるインクジェットヘッドを用いたプリンタの斜視図。第2図は本発明によるインクジェットヘッドの第1の実施例を示す断面図。第5図(a)～(d)はインク滴吐出の過程図。第4図は本発明によるインクジェットヘッドの第2の実施例を示す要部断面図。第5図は従来のインクジェットヘッドの構造を示す図。

1 --- 記錄集體

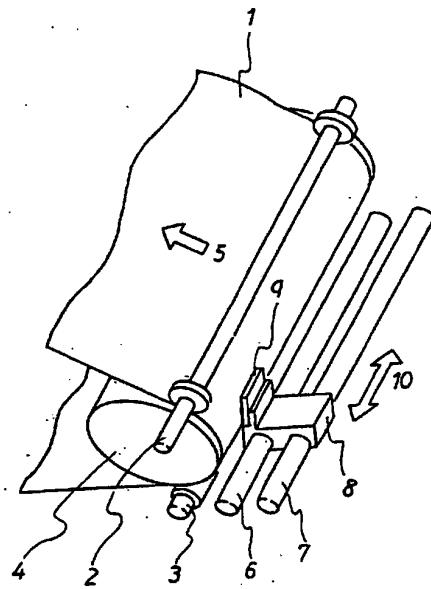
3. ブラテン

特開平4-126255(4)

9 …… インクジェットヘッド
 11 …… 復帰ばね
 12 …… 永久磁石
 13 …… 電磁コイル
 16 …… ノズル開口
 17 …… ノズル形成部材
 25 …… インク滴

以上

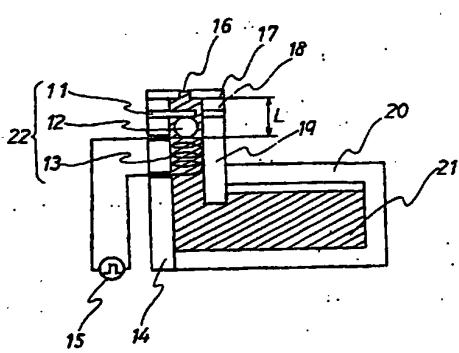
出願人 ゼイコーエプソン株式会社
 代理人 弁理士 鈴木喜三郎(他1名)



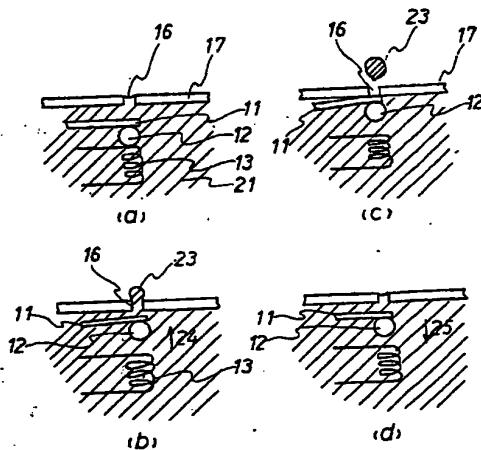
第1図

11…復帰ばね
 12…永久磁石
 13…電磁コイル
 17…ノズル形成部材
 21…インク

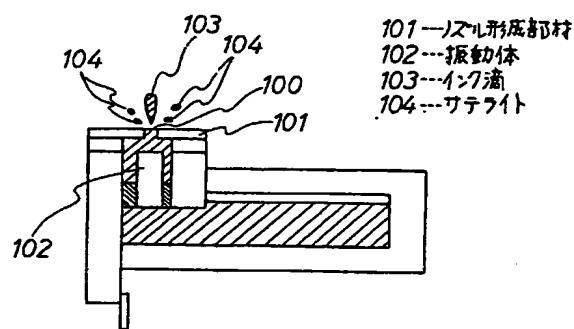
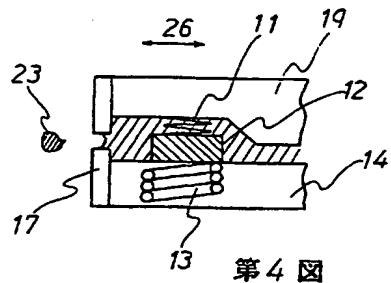
11…復帰ばね
 12…永久磁石
 13…電磁コイル
 16…ノズル開口
 17…ノズル形成部材



第2図



第3図



THIS PAGE BLANK (USPTO)